

ビデオ 通信

2013年
2月21日(木)
No.3659

毎週月・木曜日発行
1ヶ月 ¥11,550 (税込)
発行：飯澤剛
編集：齋藤浩一、齋藤知香

ユニ通信社

東京都千代田区神田司町 2-10
神田司町国土ビル 2F 〒101-0048
TEL : 03-5256-1521
FAX : 03-5256-1525
E-mail : vt@uni-press.net

音響ハウス

短編映画『共犯者たち』のカラーグレーディングを担当 「第5編集室」装備のDaVinci Resolveで

音響ハウス(株)は、21日から北海道夕張市で開催される「ゆうばり国際ファンタスティック映画祭 2013」において上映される短編映画『共犯者たち』(監督：岨手由貴子氏/撮影：池田美都氏)のカラーグレーディングを担当した。同作品は、キヤノンのデジタルシネマカメラ「EOS C300」においてCanon Logで収録された素材を、2012年12月にオープンした本社「第5編集室」



『共犯者たち』

でカラーグレーディングを行ったもの。音響ハウスでは〈今回のEOS C300をはじめとする低価格のデジタルシネマカメラによるRAW/Log撮影が増加することに伴い、カラーグレーディングの需要も高まっていくと予測している。CMなどのハイエンド作品から比較的ローバジェットの映画まで、幅広いカラーグレーディングのニーズに対応していきたい〉としている。なお、『共犯者たち』は、同映画祭における上映(23日、24日)に先立ち、21日にBSスカパー! 241chでも放映される。



音響ハウス「第5編集室」におけるカラーグレーディング作業

独特な世界観を持ったラブストーリー

岨手監督4本目の映画となる映画『共犯者たち』は、弔事などの問題を乗り越えていく歳の離れた夫婦のラブストーリー。夫婦は妻の伯母の葬儀に出席するため、地方のホテルに宿泊するが、伯母とは結婚を反対されたことで仲違いしており、10年間会っていなかった。伯母の思い出を語るにつれ、ふたりの間にあった溝が明らかになっていく――。

見どころについて、監督だけでなく脚本・編集なども担当した岨手由貴子氏は〈夫婦愛をテーマとした映画ですが、いわゆる“ステキなラブストーリー”ではなく、10年目を迎えた夫婦間の恨みやわだかまりなどのネガティブな感情も含めた夫婦のラブストーリーを「セリフ」で説明するのではなく、「映像」やその「トーン」で表現したいと考えました。わかりやすいタイプの映画ではありませんが、見終わ



岨手由貴子氏

った後に残る読後感、全体から受ける独特な印象を感じていただきたいと思っています」とする。

一方、カメラマンの池田美都氏は「全編にわたって、言葉ではうまく表せないような感覚を描いていく作品。メッセージ性で理解するのではなく、映像の中で何かを感じられるものを具体的に視覚化したいと考えました。自分が最初に持ったイメージをどこまで再現できるか。それだけを考えて



池田美都氏

て撮影を進めました。作品のシチュエーションは、ホテルとレストラン、夜の道、タクシーの中とあり、ストーリーのほとんどがホテルの中で進んでいきます。ホテルの部屋の中に、沢山の室内光が当たっているような“ブルジョアジー”なものではなく、少ない光の中で、暗部のトーンを活かした映像を撮りたいと考えました。さらに、アングルの的には若干の「ファニー」を感じるような、黄金律から若干ズレている違和感のあるものを目指しました」とする。

EOS C300 Canon Log 撮影、DaVinci Resolve でグレーディング

撮影は、キヤノンのデジタルシネマカメラ「EOS C300」で行われた。池田氏は、同カメラを選択した理由について「私が感じた作品の映像イメージを具体化するには「フィルムしかない!」と思いました。ただ、予算の関係などもあってREDの4K/RAW撮影も考えましたが、撮影にはシティホテルの部屋をそのまま使うほか、狭いバスルームでの重要なシーンもある。様々なアングルから撮りたいし、色々なレンズも使いたい。結論としてEOS C300 & Canon Logによる撮影を決めました」としている。



EOS C300による撮影



ホテル内での撮影風景

撮影は12月10～12日の3日間、都内のホテルや横浜で行われ、それに先だってEOS C300の入念なカメラテストが行われた。

撮影後、池田氏のMacに搭載したDaVinci Resolve liteでプリ・カラコレし、岨手監督がPremiereで仮編集を行った素材を、音響ハウス「第5編集室」に持ち込み、DaVinci Resolveによって本格的なカラーグレーディング作業を行った。カラーグレーディング作業は同社の小川翔平氏が担当した。

岨手氏は「ロウソクの灯りだけで芝居をするシーンなど、グレーディング前は結構明るく映っていたので、編集しながら「雰囲気が出てないなあ」と思いましたが、グレーディングした画を見て初めて「そうそう、この雰囲気!」と……。雰囲気の有無でつなぐポイントも変わっていきます」としている

カラリストとのコミュニケーションが大切

カラーグレーディングにも立ち会ったという岨手氏は「今、日本映画界ではよく「撮影中、監督はモニターを見るな!」と言われます。「しっかり芝居を見る」ということではありますが、監督がカラーのトーンなどにもこだわりをもつことも重要ではないかと思っています。今回は自主制作の小さな映画にもかかわらず、特別に音響ハウスさんでカラーグレーディングをさせていただきま



▽スカパー放映：21 日深夜 1:05 ～
▽タ張国際ファンタスティック映画祭上映：フォアキャスト部門（23 日 13:00）、「テン年代クリエイターズ 8」全 8 本上映（24 日 19:00 ～）

『共犯者たち』監督・脚本・編集：岨手由貴子／撮影：池田美都／照明：大川拓也／録音：中島雄介／衣装：中村実樹／メイク：枝村香織／撮影助手：野村昌平／照明助手：小柳津尚敬、松本千裕／スチール：仲田梨枝／音楽：milk／出演：長谷川初範、Merii

したが、こうしたカラーグレーディングも含め、作品をトータルにチェックするような環境があれば、日本映画全体のクオリティの底上げも進んでいくのではないかと考えています」と語る。

池田氏は〈自分が撮影した作品をカラーグレーディングルームに入って作業を行うのは初めての経験でしたが、カリリストとのコミュニケーションの取り方、自分の想いを伝える難しさを実感しました。また、今回、カラーグレーディングルームという環境の整ったところで作業してみて初めて気づいたことが沢山あり、今後につながるような発見もできました。自分が思い描くルックに近づけるためには、経験を積み、自分のスタイルを確立していくことが重要だと思います〉とする。

幅広いカラーグレーディングのニーズに対応 — 音響ハウス

一方、音響ハウス 執行役員／スタジオ事業部門 技術統括の織田泰光氏は〈普段行っている編集で指示をいただくのは監督ですが、カラーグレーディングではカメラマンになります。同じ技術者同士だからこそ通じ合える部分がある反面、お互いに手探りの部分もあったと思います。比較的ローバジェット映画などでも RAW/Log 撮影を行うケースが増加しています。第 5 編集室は、RAW/Log 撮影では不可欠なカラーグレーディングもローコストで行いたいというニーズに対応するために新設したものです。今回の EOS C300 など、RAW/Log 撮影が可能な低価格のデジタルシネマカメラが登場し、撮影はローコストでできるようになったのに、仕上げの敷居が高いのでは全体的なローコスト化にはつながりません。カラーグレーディングにも対応できる技術スタッフを育成しながら、ローバジェットの映画から CM などハイエンド作品まで、幅広いカラーグレーディングのニーズに対応していきたいと思っています〉と話している。



音響ハウスの第 5 編集室

◇音響ハウス <http://www.onkio.co.jp/>